

Sun Server X3-2 (旧 Sun Fire X4170 M3)

Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド



Part No: E35481-01
2012年9月

Copyright © 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS. Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
最新のソフトウェアとファームウェアの入手	5
このドキュメントについて	6
関連ドキュメント	6
フィードバック	6
サポートとアクセシビリティ	7
Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて	9
関連情報	9
Oracle Solaris OS インストールタスクマップ	10
サポートされているオペレーティングシステム	11
コンソール表示オプションの選択	11
ブートメディアオプションの選択	14
インストール先オプションの選択	16
Oracle Solaris OS インストールオプション	17
オペレーティングシステムのインストールの準備	19
BIOS の出荷時デフォルトの確認	19
RAID の構成	23
Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール	25
関連情報	25
準備作業	25
メディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 オペレーティングシ ステムの単一システムへのインストール	26
サーバーファームウェアとソフトウェアの入手	35
ファームウェアとソフトウェアのアップデート	35
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション	36
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ	36
ファームウェアとソフトウェアへのアクセス	38
更新のインストール	42

索引45

このドキュメントの使用方法

このインストールガイドでは、Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール手順と、Oracle の Sun Server X3-2 を構成可能かつ使用可能な状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。

注 – Sun Server X3-2 は以前は Sun Fire X4170 M3 サーバーという名前でした。この旧名がまだソフトウェアに表示されている場合があります。新しい製品名は、システム機能の変更を示すものではありません。

このドキュメントは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (ASP)、およびオペレーティングシステムのインストールについての経験を持つユーザーを対象としています。

このセクションでは、最新のソフトウェアとファームウェア、ドキュメントとフィードバック、およびサポートとアクセシビリティ情報の入手方法を説明します。

- 5 ページの「最新のソフトウェアとファームウェアの入手」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 6 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「フィードバック」
- 7 ページの「サポートとアクセシビリティ」

最新のソフトウェアとファームウェアの入手

各 Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシ用のファームウェア、ドライバ、その他のハードウェア関連ソフトウェアは定期的に更新されます。

最新バージョンは次の3つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant – Oracle x86 サーバーの出荷時にインストール済みの新規オプションです。必要なすべてのツールとドライバが含まれており、サーバーに組み込まれています。
- My Oracle Support: <http://support.oracle.com>

- 物理メディアの申請

詳細は、35 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。情報は(オンラインヘルプと同様の)トピック単位の形式で提供されるので、章、付録、セクション番号はありません。

特定のトピック(ハードウェア設置やプロダクトノートなど)に関するすべての情報が含まれる PDF 版を生成するには、HTML ページの左上隅にある PDF ボタンをクリックします。

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	http://www.oracle.com/documentation
Sun Server X3-2	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX3-2
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
Oracle Hardware Management Pack 2.2	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp

フィードバック

次のサイトでこのドキュメントについてのフィードバックをお送りいただけます:

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com 聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて

注 - サーバーは以前は Sun Fire X4170 M3 サーバーという名前でした。この旧名がまだソフトウェアに表示されている場合があります。新しい製品名は、システム機能の変更を示すものではありません。

このセクションでは、サーバーに新しい Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS) をインストールする手順の概要を示します。

説明	リンク
Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール手順	10 ページの「Oracle Solaris OS インストールタスクマップ」
サポートされている Oracle Solaris オペレーティングシステム	11 ページの「サポートされているオペレーティングシステム」
コンソール表示オプションとそれらの設定方法について学習します。	11 ページの「コンソール表示オプションの選択」
ブートメディアオプションとそれらの設定方法について学習します。	14 ページの「ブートメディアオプションの選択」
インストール先オプションとそれらの設定方法について学習します。	16 ページの「インストール先オプションの選択」
OS のインストールオプション	17 ページの「Oracle Solaris OS インストールオプション」

関連情報

- [25 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール」](#)

Oracle Solaris OS インストールタスクマップ

次の手順では、新規インストールで Oracle Solaris OS をインストールするためのステップについて説明します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『設置』、「サーバーのラックへの設置」 ■ 『設置』、「サーバーの配線」 ■ 『設置』、「Oracle ILOM への接続」
2.	Oracle Solaris インストールメディアを入手します。	<p>インストールメディアは、次の場所でダウンロードまたは注文できます:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris10/downloads/index.html ■ http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris11/downloads/index.html
3.	『プロダクトノート』を確認します。	『Sun Server X3-2 プロダクトノート』: http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX3-2
4.	インストールの実行時に使用するコンソール、メディア、インストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 11 ページの「コンソール表示オプションの選択」 ■ 14 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 16 ページの「インストール先オプションの選択」
5.	OS の新規インストール時の BIOS 設定を確認します。	19 ページの「BIOS の出荷時デフォルトの確認」
6.	Oracle Solaris OS をインストールします。	26 ページの「メディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムの単一システムへのインストール」
7.	インストール後のタスクを適宜実行します。	34 ページの「Oracle Solaris インストール後のタスク」

Oracle Solaris OS の追加ドキュメントは、次の URL で入手できます:

- Oracle Solaris 10 8/11: http://docs.oracle.com/cd/E23823_01/index.html
- Oracle Solaris 11: http://docs.oracle.com/cd/E23824_01/index.html

関連情報

- 19 ページの「オペレーティングシステムのインストールの準備」

サポートされているオペレーティングシステム

サーバーでは、次の Oracle Solaris オペレーティングシステムソフトウェアがサポートされます。

Oracle Solaris OS	版
Oracle Solaris	リリース 10 8/11
Oracle Solaris	リリース 11 11/11 (SRU 2 以降が必須)

注 - サーバーに Oracle Solaris 11 11/11 をインストールする前に、Oracle Solaris に Support Repository Update (SRU) 2 以降を組み込むようアップデートする必要があります。Oracle Solaris 11 11/11 に SRU を追加する方法については、<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris11/documentation/index.html> を参照してください。

サーバーの注文時に Oracle Solaris オペレーティングシステム (OS) のプリインストール版の事前インストールを要求した場合は、工場出荷時に、SRU 2 組み込み済みの Oracle Solaris 11 11/11 がプリインストールされています。サーバーにすでにインストールされている Oracle Solaris オペレーティングシステムを使用したくない場合は、Oracle Solaris 11 11/11 を新規インストールできます。

さらに、サポートされているその他のオペレーティングシステムや仮想マシンをサーバーにインストールすることもできます。サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全な一覧については、最新バージョンの『Sun Server X3-2 プロダクトノート』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX3-2>) を参照して更新情報を確認してください。

関連情報

- 25 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール」

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためのコンソールへの接続オプションについて説明します。

- 12 ページの「コンソール表示オプション」
- 12 ページの「ローカルコンソールを設定する」
- 13 ページの「リモートコンソールを設定する」

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末
 端末を、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続した端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) と 2 つの背面 USB コネクタに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への SSH クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

- 1 ローカルコンソールに接続するには、次のいずれかを行います。
 - 直接または端末エミュレータを介して、シリアル管理ポート (SER MGT) に端末を接続します。
 - VGA モニター、キーボード、マウスをビデオポート (VGA) と USB ポートに接続します。
- 2 シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには:
 - a. Oracle ILOM のユーザー名およびパスワードを入力します。
 - b. Oracle ILOM プロンプトで、次を入力します。
 -> **start /HOST/console**

シリアル管理ポート出力は、Linux ホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

▼ リモートコンソールを設定する

- 1 サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。
コマンド行インタフェースまたは Web インタフェースを使用して Oracle ILOM にリモートからログインするには、サーバー SP の IP アドレスが必要です。サーバーの IP アドレスの確認方法については、『設置』の「サーバー SP の IP アドレスの確認」を参照してください。
- 2 Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、以下の手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。
 - b. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
 - c. Oracle ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。
 - d. 必要に応じて、「Devices」メニューでデバイスのリダイレクト(マウス、キーボードなど)を有効にします。
- 3 SSH クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。
 - a. シリアルコンソールから、サーバー SP への SSH 接続を確立します (`ssh root@hostname`。ここでは、`hostname` はサーバー SP の DNS 名または IP アドレス)。
 - b. Oracle ILOM にログインします。
 - c. 次を入力して、シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします:
-> `start /HOST/console`

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

ブートメディアオプションの選択

オペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースからブートします。このセクションでは、各ソースについて、サポートされているメディアソースとセットアップ要件を明示します。

- 14 ページの「ブートメディアオプションの要件」
- 14 ページの「ローカルブートメディアオプションを設定する」
- 15 ページの「リモートブートメディアオプションを設定する」

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- 14 ページの「ローカルブートメディアの要件」
- 14 ページの「リモートブートメディアの要件」

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

リモートブートメディアの要件

ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上に OS イメージをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- DVD-ROM インストールメディア
- DVD-ROM ISO インストールイメージメディア
- PXE boot – Oracle Solaris 11 は PXE ブートをサポートしています。ただし、いったん PXE ブートが開始されると、Oracle Solaris 11 のインストールは Automated Installation (AI) インストーラを使用して実行されます。

▼ ローカルブートメディアオプションを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、次のいずれかのオプションを使用して、Oracle Solaris OS インストールメディアが格納されているストレージデバイスをサーバーに装着する必要があります。

- 1 サーバーにオプションの DVD ドライブが装備されている場合は、サーバー前面の DVD ドライブに Oracle Solaris OS インストール DVD を挿入します。そうでない場合は、次の手順に進みます。
- 2 サーバーに DVD ドライブがない場合は、サーバー前面または背面の外部 USB ポートの 1 つに、Oracle Solaris OS インストールメディアが格納された USB フラッシュドライブを装着します。

注-サーバーの外部 USB ポートの場所については、『設置』の「サーバーの機能とコンポーネント」を参照してください。

▼ リモートブートメディアオプションを設定する

リモートの場所にあるメディアから OS をインストールするには、次のステップを実行します。

- 1 リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、以下の手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. OS ブートメディアをマウントまたは認識させてアクセスできるようにします。例:
 - DVD-ROM の場合は、リモートシステム上の内蔵または外付けの DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
 - DVD-ROM ISO イメージの場合は、ISO イメージがネットワーク共有された場所で利用できることを確認します。
 - b. サーバー Oracle ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。
詳細は、11 ページの「コンソール表示オプションの選択」に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。
 - c. Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションの「Devices」メニューで、次のようなブートメディアの場所を指定します:
 - DVD-ROM ブートメディアの場合は、「CD-ROM」を選択します。
 - DVD-ROM ISO イメージブートメディアの場合は、「CD-ROM Image」を選択します。
- 2 PXE を使用してインストールを実行する手順については、次の Oracle Solaris のインストールドキュメントを参照してください。

- Oracle Solaris 10 OS の場合、http://docs.oracle.com/cd/E23823_01/index.html の『Oracle Solaris 10 8/11 インストールガイド (ネットワークインストール)』を参照してください。
- Oracle Solaris 11 OS の場合は、http://docs.oracle.com/cd/E23824_01/index.html の『カスタム Oracle Solaris 11 インストールイメージの作成』を参照してください。

インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先の設定方法を説明します。

- 16 ページの「インストール先のオプション」
- 16 ページの「ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する」
- 17 ページの「インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する」

インストール先のオプション

組み込み型 Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (Oracle System Assistant 用に予約されています) を例外として、サーバーに取り付けられている任意のストレージドライブにオペレーティングシステムをインストールできます。これらにはハードディスクドライブ (HDD) と半導体ドライブ (SSD) があります。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けの FC ストレージデバイスにインストールすることも選択できます。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する

- HDD または SSD が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。HDD または SSD の取り付けおよび電源投入方法の詳細は、『サービス』、「ストレージドライブの保守 (CRU)」を参照してください。

▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する

- 1 **PCIe** ホストバスアダプタ (HBA) がサーバーに正しく取り付けられていることを確認します。
PCIe HBA オプションの設置方法については、『サービス』の「PCIe カードの保守 (CRU)」を参照してください。
- 2 **Storage Area Network (SAN)** をインストールおよび構成して、サーバーホストでストレージデバイスが認識されるようにします。
手順については、ファイバチャネル HBA 付属のドキュメントを参照してください。

Oracle Solaris OS インストールオプション

OS は、単一のサーバーまたは複数のサーバーにインストールするよう選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、2つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	Oracle Enterprise Manager Ops Center を使用すると、1つの OS を複数のサーバーにインストールできます。詳細は、 http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html を参照してください。
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。 ■ リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されます。Oracle ILOM Remote Console アプリケーションを使用すると、OS を手動でインストールできます。

サーバー 1 台構成の OS インストール方法についての詳細は、次を参照してください:

- 18 ページの「サーバー 1 台構成のインストール方法」

サーバー 1 台構成のインストール方法

Oracle Solaris インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 - サーバーに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードとマウス、USB DVD ドライブ、および Oracle Solaris 配布メディア。ローカルインストールの場合は、ローカルの DVD ドライブまたはサーバーに直接装着された USB フラッシュドライブを使用してインストールメディアを配布します。
CD/DVD ドライブまたは DVD/ISO イメージを使用したリモートインストール-Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上のリダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	ブラウザを実行しているリモートシステム、物理 CD/DVD ドライブが接続されていること、Oracle Solaris 配布メディア、サーバーの管理ポートに対するネットワークアクセス。リモートインストールの場合は、リモートの DVD、USB フラッシュドライブ、または DVD イメージを使用してインストールメディアを配布します。

オペレーティングシステムのインストールの準備

このセクションでは、オペレーティングシステムをインストールできるようにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
サーバーの BIOS 設定を確認し、出荷時のデフォルトに設定します。	19 ページの「BIOS の出荷時デフォルトの確認」
サーバーの RAID セットアップを構成します。	23 ページの「RAID の構成」

▼ BIOS の出荷時デフォルトの確認

注 - 新しく設置されたサーバーにはじめてオペレーティングシステムをインストールする場合、BIOS はおそらくデフォルト設定に構成されているため、この手順を実行する必要はありません。

システム BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方のモードをサポートしています。デフォルトの設定はレガシー BIOS です。

注 - Oracle Solaris 11 11/11 および Oracle Solaris 10 8/11 では UEFI はサポートされていません。そのため、Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールする前に、BIOS の「Boot」メニューの「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドが「Legacy」(デフォルト設定)に設定されていることを確認する必要があります。

BIOS 設定ユーティリティーでは、最適なデフォルト値を設定できます。また、BIOS の設定を必要に応じて表示および編集することもできます。BIOS 設定ユーティリティー (F2 キー) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されません。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 キーを使用することで、一時ブートデバイスを指定できます。F8 キーを使用

して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 キーで指定した常時ブートデバイスが有効になります。

始める前に 次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されている。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されている。詳細な手順については、『サービス』、「ストレージドライブの保守 (CRU)」を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は、[11 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。

1 サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

例:

- ローカルサーバーでは、サーバーの前面にある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」> 「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- サーバー SP 上の **Oracle ILOM CLI** では、「**reset /System**」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

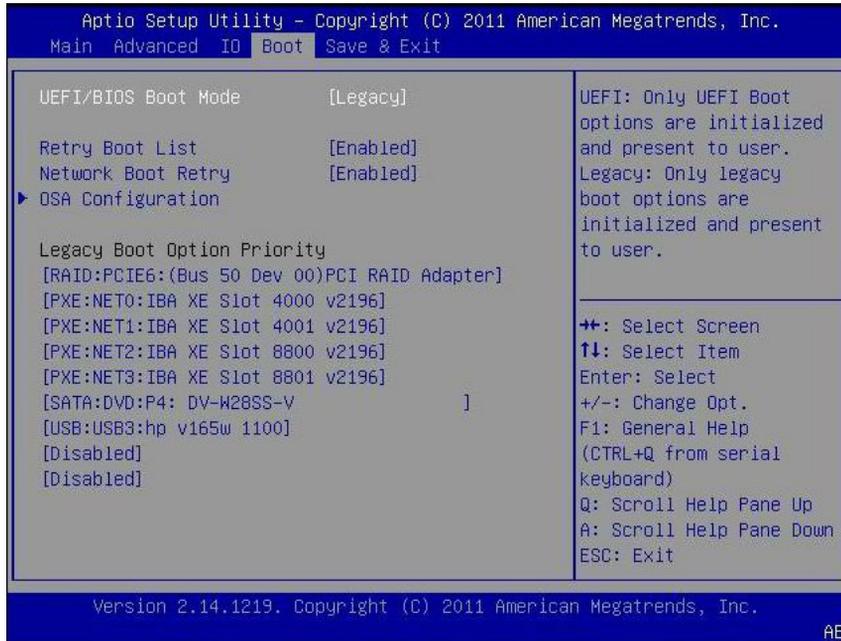


2 BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティーが表示されます。

- 3 出荷時のデフォルト値に設定するために、次を実行します。
 - a. **F9**を押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。
メッセージが表示され、「OK」を選択してこの操作を続けるか、「CANCEL」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
 - b. メッセージで「OK」を強調表示して、**Enter**を押します。
BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、システム時間の欄の最初の値でカーソルが強調表示されます。
- 4 BIOS 設定ユーティリティーで次の手順を実行して、システム時間またはシステム日付に関する値を編集します。
 - a. 変更する値を強調表示します。
上下の矢印キーを使用して、システムの時間と日付の選択を変更します。
 - b. 強調表示された欄の値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス (+)を押すと、表示されている現在の値が増加します
 - マイナス (-)を使用すると、現在表示されている値が減少します
 - **Enter**を押すと、カーソルが次の値の欄に移動します

- 5 ブート設定にアクセスするには、「**Boot**」メニューを選択します。
「**Boot**」メニューが表示されます。



- 6 「**Boot**」メニューで、「**UEFI/Boot Mode**」が「**Legacy**」に設定されていることを確認します。

「**UEFI/Boot Mode**」が「**UEFI**」に設定されている場合は、上/下矢印キーを使用して「**UEFI/BIOS Boot Mode**」フィールドを選択して、**+/-** キーを使用して設定を「**Legacy**」に変更します。

注 - Oracle Solaris 11 11/11 または Oracle Solaris 10 8/11 のいずれかをインストールする際には、「**UEFI/Boot Mode**」を「**Legacy**」に設定する必要があります。

- 7 「**Boot**」メニューで、下矢印キーを使用して「**Legacy Boot Option Priority**」を選択し、**Enter**を押します。

「**Boot Device Priority**」メニューが表示され、認識されているブートデバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、ブートの優先度が高最も高いデバイスです。

- 8 「**Boot Device Priority**」メニューで次の手順を実行して、リストの最初のブートデバイスエントリを編集します。

- a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、**Enter**を押します。

-
- b. 「Options」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時ブートデバイスを選択し、**Enter**を押します。

注-変更する各デバイス項目に対して手順 8a および 8b を繰り返して、リスト内のほかのデバイスのブート順を変更できます。

- 9 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10**を押します。
または、「Save & Exit」メニューで「Save Changes and Reset」を選択することで、変更内容を保存し、BIOS 設定ユーティリティーを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「OK」を選択して、**Enter**を押します。

注-Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 はローカル OS にトラップされます。このため、リモートコンソールアプリケーションの上部にある「Keyboard」ドロップダウンメニューから「F10」オプションを使用する必要があります。

RAID の構成

RAID ボリュームに Oracle Solaris OS をインストールする場合は、Oracle Solaris OS のインストールプロセスを開始する前に RAID ボリュームを構成しておく必要があります。RAID の構成の詳細については、『設置』、「RAID の構成」を参照してください。

関連情報

- 『管理』、「RAID の構成」

Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストール

このセクションでは、Oracle Solaris オペレーティングシステムをサーバーにインストールする方法について説明します。

説明	リンク
プリインストール要件	25 ページの「準備作業」
メディアを使用した Oracle Solaris のインストール	26 ページの「メディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 オペレーティングシステムの単一システムへのインストール」

関連情報

- 9 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて」
- 19 ページの「BIOS の出荷時デフォルトの確認」
- 23 ページの「RAID の構成」

準備作業

次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーのストレージドライブで RAID (Redundant Array of Independent Disks) を構成する場合は、オペレーティングシステムをインストールする前に行う必要があります。RAID の構成の詳細については、『設置』、「RAID の構成」を参照してください。

注 - サーバーに Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (SGX-SAS6-R-INT-Z) が装備されている場合、オペレーティングシステムをインストールする前に、RAID ボリュームを作成し、それをブート可能に設定する必要があります。そうしないと、HBA はサーバーのストレージドライブを識別できません。

- コンソール用ディスプレイオプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションおよびセットアップ手順については、11 ページの「コンソール表示オプションの選択」を参照してください。

- ブートメディアオプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションおよびセットアップ手順については、14 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。
- このインストール手順を開始する前に、インストール先オプションとして使用するストレージドライブを決定し設定しておく必要があります。インストール先ストレージドライブおよびセットアップ手順については、16 ページの「インストール先オプションの選択」を参照してください。
- BIOS 設定がデフォルトに設定されていることを確認します。BIOS 設定を検証し、必要に応じて設定する方法については、19 ページの「BIOS の出荷時デフォルトの確認」を参照してください。
- ローカルインストールを実行する場合は、Oracle Solaris インストールメディアを手元に用意して、プロンプトが表示されたら、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入できるようにしておきます。
- リモートインストールを実行する場合は、Oracle ILOM リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブに Oracle Solaris インストールメディアを挿入します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM」を選択していることを確認します。
- Oracle Solaris イメージを使用する場合は、Oracle ILOM リモートコンソールシステムから Oracle Solaris ISO イメージにアクセスできることを確認します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM Image」を選択していることを確認します。
- Oracle Solaris オペレーティングシステムのドキュメントを用意し、この章で説明する手順と一緒に使用するようにしてください。Oracle Solaris OS のドキュメントは次にあります。
 - Oracle Solaris 10 のドキュメント:http://docs.oracle.com/cd/E23823_01/index.html
 - Oracle Solaris 11 のドキュメント:http://docs.oracle.com/cd/E23824_01/index.html

メディアを使用した **Oracle Solaris 10** または **Oracle Solaris 11** オペレーティングシステムの単一システムへのインストール

注 - Oracle System Assistant は、Oracle Solaris OS のインストールをサポートしていません。

次のトピックには、Oracle Solaris 10 または 11 OS をインストールするためのガイドラインが記載されています。

- 27 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール」
- 30 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール」
- 34 ページの「Oracle Solaris インストール後のタスク」

関連情報

- 9 ページの「Oracle Solaris オペレーティングシステムのインストールについて」

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した **Oracle Solaris 10** または **Oracle Solaris 11** のインストール

次の手順では、ローカルメディアまたはリモートメディアから Oracle Solaris 10 または 11 オペレーティングシステムのインストールをブートする方法を説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- Oracle Solaris 10 8/11、Oracle Solaris 11 11/11 (SRU 2 以降が必須)、または以降のリリースの DVD セット (内蔵または外付けの DVD)
- Oracle Solaris 10 8/11、Oracle Solaris 11 11/11 (SRU 2 以降が必須)、または以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 - サーバーに Oracle Solaris 11 11/11 をインストールする前に、Oracle Solaris に Support Repository Update (SRU) 2 以降を組み込むようアップデートする必要があります。Oracle Solaris 11 11/11 に SRU を追加する方法については、<http://www.oracle.com/technetwork/server-storage/solaris11/documentation/index.html> を参照してください。

注 - PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、30 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール」で手順を確認してください。

- 1 インストールメディアがブート可能であることを確認します。
 - 配布 DVD の場合。ローカルまたはリモートの DVD ドライブに Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 DVD を挿入します。

- ISOイメージを使用する場合。ISOイメージが使用可能であることと、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージが選択されていることを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細については、14 ページの「ブートメディアオプションの選択」を参照してください。

2 サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

例:

- ローカルサーバーでは、サーバーの前面にある電源ボタンを押して(約1秒)サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- Oracle ILOM Web インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- サーバー SP の Oracle ILOM CLI で、次のように入力します: `reset /System`

BIOS 画面が表示されます。



注-次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。

- 3 BIOS 画面で **F8** キーを押して、**Oracle Solaris OS** インストール用の一時ブートデバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

```

Please select boot device:

SAS:PCIE2:Bus 00-1210B4BD HITACHI H10603
SAS:PCIE2:Bus 00-120F30A1 HITACHI H10603
PXE:NET0:IBA XE Slot 0400 v2181
PXE:NET1:IBA XE Slot 0401 v2181
PXE:NET2:IBA XE Slot 8200 v2181
PXE:NET3:IBA XE Slot 8201 v2181
USB:VIRTUAL:AMI Virtual CDROM 1.00
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults

```

- 4 「**Boot Device**」メニューで、最初の(一時)ブートデバイスとして外付けまたは仮想DVDデバイスを選択して、**Enter** キーを押します。

手順3に示す「Boot Device」メニューの例では、ブートデバイスとして仮想DVDデバイスが指定されています。

注-Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用して、リダイレクトされたDVDからOracle Solarisのインストールを実行する場合は、「AMI Virtual CDROM」を選択します。この項目は、リダイレクトされたDVDからインストールを実行するときに、「Boot Device」メニューのオプションとして表示されます。

「GRUB」メニューが表示されます。

- 5 画面に表示されるプロンプトに従って**Oracle Solaris**のインストールを完了します。
Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストールを完了する手順については、Oracle Solaris のインストールドキュメントを参照してください。
 - Oracle Solaris 10 8/11 の場合は、http://docs.oracle.com/cd/E23823_01/index.htmlにあるインストールガイドを参照してください。
 - Oracle Solaris 11 の場合は、http://docs.oracle.com/cd/E23824_01/index.htmlにあるインストールガイドを参照してください。

参考 関連情報

- 30 ページの「PXE ネットワークブートを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール」

▼ PXE ネットワークブートを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール

次の手順では、PXE ネットワーク環境から Oracle Solaris 10 または 11 オペレーティングシステムをインストールする方法について説明します。

注 - Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 では、JumpStart を使用することで、複数のサーバーにはじめて Oracle Solaris オペレーティングシステムを設定する際の一部またはほとんどの手動タスクを省くことができます。JumpStart イメージの使用方法については、『Oracle Solaris 10 8/11 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』を参照してください。

始める前に Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 PXE ブートインストールを開始するには、次の要件を満たしている必要があります。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次のタスクを完了しておくようにしてください:
 - Oracle Solaris 10 の場合は、PXE/boot JumpStart インストールサーバーが正しくセットアップされており、ネットワーク上のサーバーにアクセスできることを確認します。
 - Oracle Solaris 11 の場合は、Automated Installation (AI) イメージインストールサーバーがセットアップされており、ネットワーク経由でサーバーにアクセスできることを確認します。

注 - 複数の DHCP サーバーが存在するサブネットを経由した場合、PXE ネットワークブートは正常に機能しません。このため、インストール対象のクライアントシステムを含むサブネットでは、ただ 1 つの DHCP サーバーを設定する必要があります。

- Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 の PXE ブート用インストールメディアが入手できることを確認します。詳細は、次のいずれかのドキュメントを参照してください:

Oracle Solaris 10 8/11 の場合は、『Oracle Solaris 10 8/11 インストールガイド (ネットワークインストール)』 (http://docs.oracle.com/cd/E23823_01/index.html) の「ネットワーク経由のインストールの計画」を参照してください。

Oracle Solaris 11 の場合は、次の場所にある『カスタム Oracle Solaris 11 インストールイメージの作成』を参照してください: http://docs.oracle.com/cd/E23824_01/index.html

- Automated Installation インストールサーバーが、システムによる PXE ブートのブート元ネットワークインタフェースの MAC アドレスを持つことを確認します。たとえば、NET0 から PXE ブートする場合は、ルートとして Oracle ILOM SP にログインして、次のように入力することで MAC アドレスを取得できます。

```
-> show /SYS/MB/NET0 fru_macaddress
/SYS/MB/NET0
Properties:
  fru_macaddress = 00:21:28:e7:77:24
```

- 1 サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

例:

- ローカルサーバーでは、サーバーの前面にある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切り、電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を入れます。
- **Oracle ILOM Web** インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- サーバー SP 上の **Oracle ILOM CLI** では、「**reset /System**」と入力します。

BIOS 画面が表示されます。

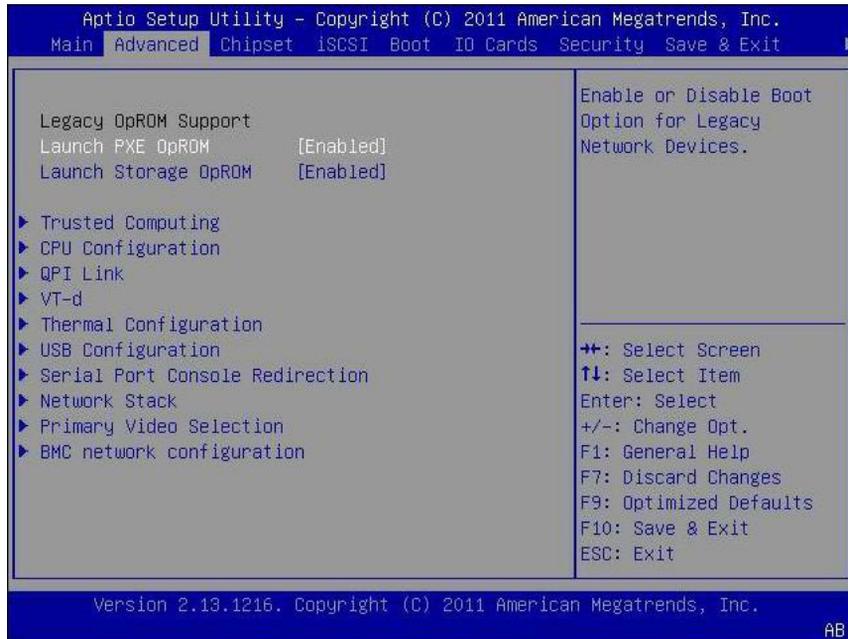


注- 次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。

- 2 PXE ブートが有効になっていることを確認するために、次の手順を実行します:

注- PXE ブートはデフォルトで有効になっていますが、この手順では万一無効になっている場合に備えて、PXE ブートが有効になっていることを確認します。PXE ブートが有効になっていることを確認したら、以降の PXE ブートではこの手順を省略できます。

- a. F2キーを押して、BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティが表示されます。



- b. 上部のメニューバーで「Advanced」を選択します。
- c. 「Launch PXE OpROM」の設定を「Enabled」にします。
- d. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10キーを押します。

これにより、サーバーがリセットされます。リセット後、再度、BIOS 画面が表示されます。

- BIOS 画面で、**F8** キーを押して一時ブートデバイスを指定するか、**F12** キーを押してネットワークブート (PXE) を指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

```

Please select boot device:

SAS:PCIE2:Bus 00-1210B4BD HITACHI H10603
SAS:PCIE2:Bus 00-120F30A1 HITACHI H10603
PXE:NET0:IBA XE Slot 0400 v2181
PXE:NET1:IBA XE Slot 0401 v2181
PXE:NET2:IBA XE Slot 8200 v2181
PXE:NET3:IBA XE Slot 8201 v2181
Enter Setup

↑ and ↓ to move selection
ENTER to select boot device
ESC to boot using defaults

```

- 「Boot Device」メニューで、適切な PXE ブートポートを選択して、**Enter** キーを押します。

PXE ブートポートは、ネットワークインストールサーバーと通信するように構成された物理ネットワークポートです。上の画面では、NET0 ポートが選択されています。

「GRUB」メニューが表示されます。

- 画面に表示されるプロンプトに従って PXE インストールを完了します。

PXE インストールを完了する手順については、次のドキュメントを参照してください:

Oracle Solaris 10 8/11 の場合は、『Oracle Solaris 10 8/11 インストールガイド (ネットワークインストール)』 (http://docs.oracle.com/cd/E23823_01/index.html) の「ネットワーク経由のインストールの計画」を参照してください。

Oracle Solaris 11 11/11 の場合は、次の場所にある『カスタム Oracle Solaris 11 インストールイメージの作成』を参照してください:http://docs.oracle.com/cd/E23824_01/index.html

- セクション 34 ページの「Oracle Solaris インストール後のタスク」に進んで、Oracle Solaris インストール後のタスクを実行します。

参考 関連情報

- 27 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した Oracle Solaris 10 または Oracle Solaris 11 のインストール」

Oracle Solaris インストール後のタスク

Oracle Solaris オペレーティングシステムをインストールしてリブートしたあとで、更新が入手可能かどうかを判別する方法と更新のインストール方法に関する手順を Oracle Solaris のドキュメントで確認してください。次のドキュメント Web サイトを参照してください:

- Oracle Solaris 10 の場合は、次の URL を参照してください:http://docs.oracle.com/cd/E23823_01/index.html
- Oracle Solaris 11 の場合は、次の URL を参照してください:http://docs.oracle.com/cd/E23824_01/index.html

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

説明	リンク
サーバーファームウェアとソフトウェアのアップデートについて学びます。	35 ページの「ファームウェアとソフトウェアのアップデート」
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプションについて学びます。	36 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション」
使用可能なファームウェアとソフトウェアパッケージを確認します。	36 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
Oracle System Assistant、My Oracle Support、または物理メディアのリクエストにより、ファームウェアおよびソフトウェアパッケージにアクセスします。	38 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセス」
ファームウェアとソフトウェアのアップデートをインストールします。	42 ページの「更新のインストール」

ファームウェアとソフトウェアのアップデート

ファームウェアとソフトウェア (サーバーのハードウェアドライバやツールなど) は、定期的に更新されます。これらは、ソフトウェアリリースとして入手可能になります。ソフトウェアリリースは、サーバー用の使用可能なファームウェア、ハードウェアドライバ、ユーティリティをすべて含んだ一連のダウンロード (パッチ) です。これらすべては、まとめてテスト済みです。ダウンロードに含まれる ReadMe ドキュメントには、以前のソフトウェアリリースからの変更点および変更されていない点について説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になり次第、更新してください。ソフトウェアリリースにはしばしばバグの修正が含まれるため、更新により、サーバーソフトウェアと、最新のサーバーファームウェアおよびほかのコンポーネントのファームウェアとソフトウェアとの互換性が保証されます。

ダウンロードパッケージ内の ReadMe ファイルには、ダウンロードパッケージ内の更新されたファイル、および現在のリリースで修正されたバグに関する情報が含まれます。プロダクトノートには、サポートされるサーバーソフトウェアのバージョンに関する情報も含まれます。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション

次のオプションのいずれかを使用して、使用しているサーバーに対応した最新のファームウェアとソフトウェアのセットを取得します。

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、出荷時にインストール済みの Oracle x86 サーバー用オプションで、サーバーのファームウェアとソフトウェアを簡単にダウンロードおよびインストールできます。

Oracle System Assistant の詳細については、『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

- **My Oracle Support** – すべてのシステムファームおよびソフトウェアは、<http://support.oracle.com> の My Oracle Support から入手できます。

My Oracle Support Web サイトで利用可能なサービスに関する詳細は、[36 ページ](#)の「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。

My Oracle Support からソフトウェアリリースをダウンロードする方法については、[38 ページ](#)の「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** – My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。

詳細は、[39 ページ](#)の「物理メディアのリクエスト」を参照してください。

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support でのダウンロードは、プロダクトファミリー、製品、バージョンの順でグループ化されます。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは、実際のソフトウェア製品リリースではなく、サーバーの更新リリースのことです。これらの更新はソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

次の表に示すように、My Oracle Support には、このサーバーファミリー向けの同じダウンロードタイプのセットが含まれます。これらも、物理メディアのリクエスト

(PMR)を行なって依頼できます。Oracle System Assistant を使用しても、同じファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、およびオプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェア。	最新のファームウェアが必要なとき。
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - OS Pack	OS Pack は、サポートされるオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できません。各 OS Pack には、その OS バージョン用のツール、ドライバ、およびユーティリティのパッケージすべてが含まれます。 ソフトウェアには、Oracle Hardware Management Pack および LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。 Windows OS の場合、この OS Pack には Intel Network Teaming and Install Pack も含まれます。	OS 固有のドライバ、ツール、またはユーティリティを更新する必要があるとき。
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - All Packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメントを含みます。 このパックには、Oracle VTS や Oracle System Assistant イメージは含まれません。	システムファームウェアと OS 固有ソフトウェアの組み合わせを更新する必要があるとき。
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - Diagnostics	Oracle VTS 診断イメージ。	Oracle VTS 診断イメージが必要なとき。
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - Oracle System Assistant	Oracle System Assistant 復旧および ISO アップデートイメージ。	Oracle System Assistant を手動で回復および更新する必要があるとき。

各ダウンロードは zip ファイルで、ReadMe ファイル、およびファームウェアやソフトウェアファイルを含むサブディレクトリセットが格納されています。ReadMe ファイルには、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントおよび修正されたバグの詳細が記載されています。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセス

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエストするための手順について説明します。

Oracle System Assistant を使用して、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードして使用できます。詳細は、『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

更新されたファームウェアおよびソフトウェアを入手する方法は、ほかにも My Oracle Support を使用する方法と、物理メディアをリクエストする方法の2つがあります。参照先:

- 38 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」
- 39 ページの「物理メディアのリクエスト」

▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード

- 1 次の Web サイトに移動します。 <http://support.oracle.com>
- 2 **Sign in to My Oracle Support.**
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリー(拡張)」をクリックします。
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、目的の製品が表示されるまで製品名のすべてまたは一部を入力します。例: サーバー。
- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
- 7 「検索」をクリックします。
ダウンロードできるパッチが一覧表示されます。

利用可能なダウンロードの説明については、36 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。

- 8 ダウンロードするパッチを選択するには、そのパッチをクリックします (**Shift** キーを使用すると、複数のパッチを選択できます)。アクションパネルがポップアップ表示されます。ポップアップパネルには、「計画に追加」および「ダウンロード」オプションを含め、いくつかのアクションオプションがあります。「計画に追加」オプションの詳細は、関連するドロップダウンボタンをクリックして、「なぜ計画を使用するのですか。」を選択してください。
- 9 パッチをダウンロードするには、ポップアップアクションパネルの「ダウンロード」をクリックします。「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。
- 10 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、パッチの **zip** ファイルをクリックします。パッチファイルがダウンロードされます。

物理メディアのリクエスト

Oracle の Web サイトからのダウンロードがプロセス許可されていない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) から最新のソフトウェアリリースにアクセスできません。

次の表に、物理メディアをリクエストするためのハイレベルタスク、および詳細情報の入手先のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストに必要な情報を収集します。	39 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」
オンラインまたは Oracle サポートに電話して物理メディアをリクエストします。	40 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」 41 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します。

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必須パッチを入手します。最新のソフトウェアリリースおよびリクエストしているダウンロードパッケージ(パッチ)の名前を知っていると、リクエストを実行しやすくなります。
- *My Oracle Support* へのアクセス権をお持ちの場合 - 38 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」の手順に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、使用可能なダウンロード(パッチ)を表示します。パッチのリストを表示したあと、ダウンロード手順を続行しない場合は「パッチ検索結果」ページからほかのページに移動できます。
- *My Oracle Support* へのアクセス権をお持ちでない場合 - 36 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」の情報を参照して、必要なパッケージを確認し、それらのパッケージを申請して最新のソフトウェアリリースを入手します。
- 出荷情報を手元に用意します。リクエストの際に、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所を入力する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト(オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、39 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」に記載された情報を収集します。

- 1 次の Web サイトへ移動します:<http://support.oracle.com>
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページの右上の「問合せ先」リンクをクリックします。
- 4 「リクエストの説明」セクションに、次の情報を入力します。
 - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンメニューで、次を選択します。
ソフトウェアおよび OS メディアリクエスト
 - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、次の内容を入力します: **Sun Server X3-2** の最新ソフトウェアリリースの **PMR**。
- 5 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します。

質問	回答
メディアの入手をご希望ですか。	あり

質問	回答
どちらの製品ラインのメディアをご希望でしょうか。	Sun 製品
パッチをダウンロードするためのパスワードに関する問い合わせでしょうか。	なし
CDやDVDでパッチをご希望ですか。	あり
パッチをCDやDVDでご希望の場合、パッチの番号、OSとプラットフォームをお知らせください。	希望するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
ご希望の製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Server X3-2 バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号
希望されているメディアのOSとプラットフォームをお知らせください。	OS固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここでOSを指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
メディアに言語は必要ですか。	なし

- 6 出荷先担当者の連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所の情報を入力します。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「ファイルのアップロード」の「関連ファイル」画面で「次へ」をクリックします。
情報を指定する必要はありません。
- 9 「関連ナレッジ」画面で、リクエストに該当するナレッジ記事を確認します。
- 10 「リクエストの送信」をクリックします。

▼ 物理メディアのリクエスト (電話)

始める前に リクエストを行う前に、[39 ページ](#)の「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」に記載された情報を収集します。

- 1 次の **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある該当する番号を使用して、**Oracle** サポートに電話をかけます。
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>
- 2 **Sun Server X3-2** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を **Oracle** サポートに伝えます。

- My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。
- ソフトウェアリリースの情報にアクセスできない場合は、Sun Server X3-2 の最新のソフトウェアリリースをリクエストします。

更新のインストール

次のセクションでは、ファームウェアとソフトウェアの更新のインストールに関する情報を提供します。

- [42 ページの「ファームウェアのインストール」](#)
- [43 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」](#)

ファームウェアのインストール

更新済みのファームウェアをインストールするには、次のいずれかを使用します。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** – Ops Center Enterprise Controller で最新のファームウェアを Oracle から自動的にダウンロードすることも、Enterprise Controller に手動でロードすることもできます。どちらの場合も、Ops Center でファームウェアを1つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシにインストールできます。
詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。
- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、最新のファームウェアを Oracle からダウンロードしてインストールできます。
詳細は、『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。
- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用して、システム内部のファームウェアを更新できます。
詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。
- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使用して更新可能な唯一のファームウェアです。
詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリを参照してください。

ハードウェアドライバと OS ツールのインストール

Oracle Hardware Management Pack などの、更新されたハードウェアドライバおよびオペレーティングシステム (OS) 関連のツールは、次のいずれかを使用してインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center**

詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。

- **Oracle System Assistant**

詳細は、『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

- JumpStart、KickStart、第三者のツールなどの、その他の配備機構。

詳細は、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

索引

B

BIOS

- 工場出荷時のデフォルトの設定の確認, 19
- 出荷時のデフォルト設定の確認, 19
- 編集および表示設定の手順, 20
- 「Boot Device」メニュー, 29

D

- DHCP サーバー、推奨されるサブセット数, 30

J

- JumpStart ユーティリティ, Oracle Solaris OS, 30

M

- My Oracle Support、ソフトウェアリリース
パッケージのダウンロードに使用する, 38

O

Oracle Solaris OS

- JumpStart ユーティリティ, 30
- Oracle ILOM リモートコンソールアプリ
ケーション, 29
- PXE インストールの制限, 30
- 一時ブートデバイス, 29
- インストール後のタスク, 34

- Oracle ILOM リモートコンソールアプリ
ケーション, Oracle Solaris OS のインス
トール, 29

Oracle Solaris OS のインストール

- PXE ベースのネットワークからリモートメ
ディアを使用, 30
- メディアを使用した単一システムへの, 26
- ローカルメディアまたはリモートメディアの使
用, 27
- ローカルメディアまたはリモートメディアを使
用, 27

- Oracle Solaris のドキュメントの Web サイト, 26

P

- PXE インストール
Oracle Solaris OS, 30
手順, 15

R

- RAID, 構成, 23

い

- 一時ブートデバイス, Oracle Solaris OS, 29
- インストール, タスクマップ, 10
- インストールオプション, 単一のサーバー, 18
- インストール後のタスク, Oracle Solaris OS, 34

インストール先
オプション, 16
ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デ
バイス, 17
ローカルストレージドライブ, 16
インストール方法, ブートメディアオプション, 14

お
オペレーティングシステム
インストールオプション, 17
サポートされるバージョン, 11
オペレーティングシステムのインストール
概要, 9-18
サポートされているオペレーティングシステ
ム, 11
オペレーティングシステムのインストールの概
要, 9-18

こ
コンソール, 表示オプションの選択, 11
コンソール表示オプション, 12

さ
サーバーの電源投入, 28
サポートされているオペレーティングシステ
ム, 11

そ
ソフトウェア
インストールオプション, 17
サポートされるバージョン, 11
ソフトウェアリリースパッケージ, My Oracle
Support を使用してダウンロード, 38

た
タスクマップ, 10

ふ
ファームウェアとソフトウェア
アクセスオプション, 36
更新, 35
更新をインストールする, 42
ダウンロード, 36, 38
ハードウェアドライバと OS ツールのインス
トール, 43
物理メディアのリクエスト, 39
物理メディアをオンラインでリクエストす
る, 40
物理メディアを電話でリクエストする, 41
メディアのリクエストに関する情報の収集, 39
ブートメディア, 要件, 14
ブートメディアのインストール, 14
プロダクトノート, Web サイト, 11

り
リモートコンソール, 設定, 13
リモートブートメディア
設定, 15
要件, 14

ろ
ローカルコンソール, 設定, 12
ローカルブートメディア
設定, 14
要件, 14